

第2章 福島市を取り巻く状況

2-1 福島市の地勢等

第2章 福島市を取り巻く状況

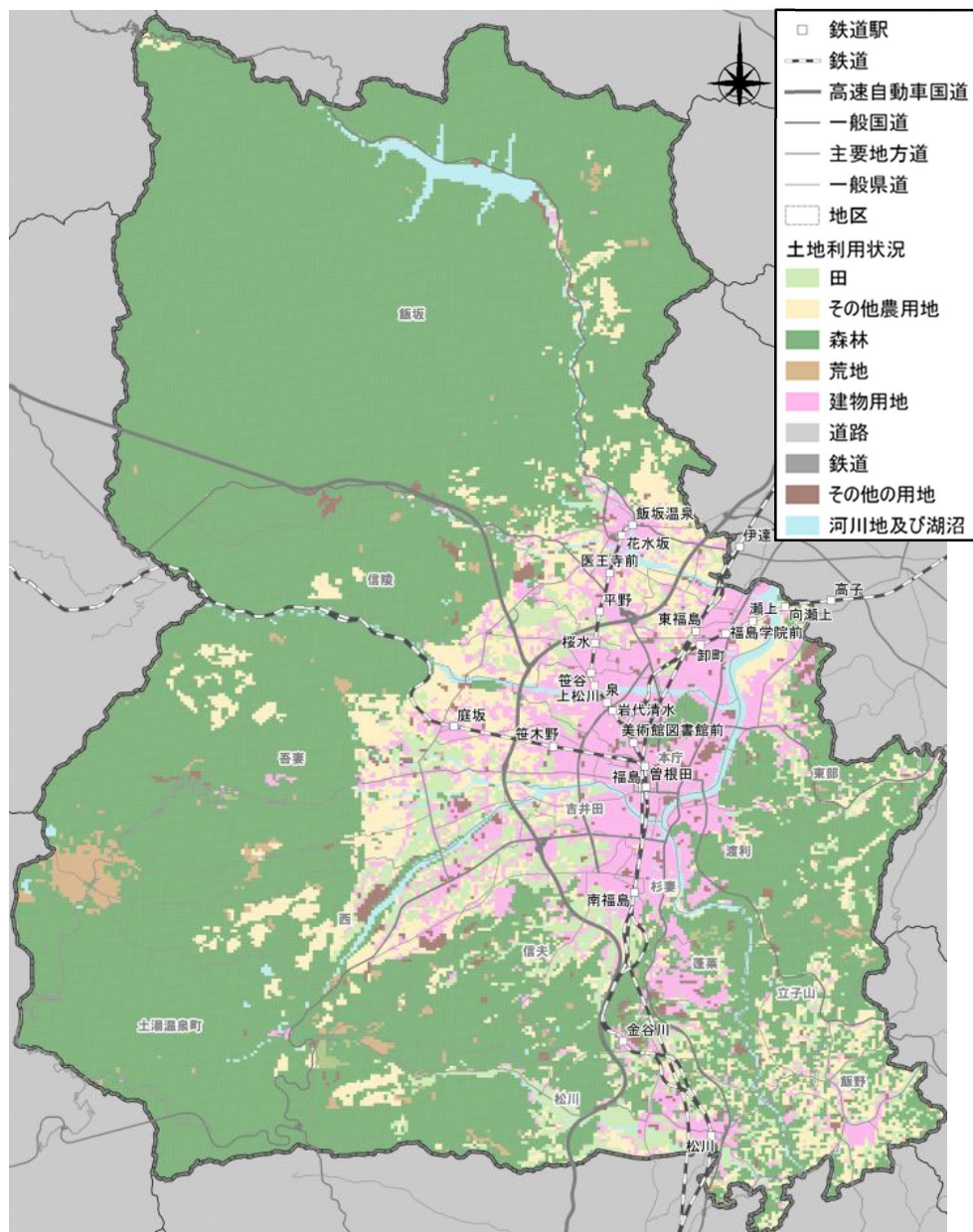
2-1 福島市の地勢等

本市は福島県の北部にあり東西 30.2 km、南北 39.1 km、面積 767.72 km²と広大な市域を有しています。

市域は、西は吾妻連峰に連なる奥羽山脈、東は丘陵状の阿武隈山地に囲まれた信達盆地に開けており、市域の中央には、信夫山が位置し、これを取り巻くように市街地が広がっています。

隣接地域は、北方は宮城県白石市、七ヶ宿町、南方は二本松市、猪苗代町、東方は伊達市、伊達郡そして西方は山形県米沢市、高畠町等に隣接しています。

市街地の中央を東北新幹線及び JR 東北本線が南北に縦貫し、また山形新幹線、JR 奥羽本線が本市を起点として山形・秋田方面へ延びており、さらに本市と宮城県を結ぶ阿武隈急行線が阿武隈川沿いを走っています。市街地は阿武隈川周辺の低平地に広がっており、起伏が少ないことから水路の勾配も緩やかとなり、雨水が溜まりやすく浸水被害が生じやすい状況や、阿武隈川等の大きな河川の水位の上昇により、水路等からの排水が困難になる状況が生じています。



出典：国土数値情報

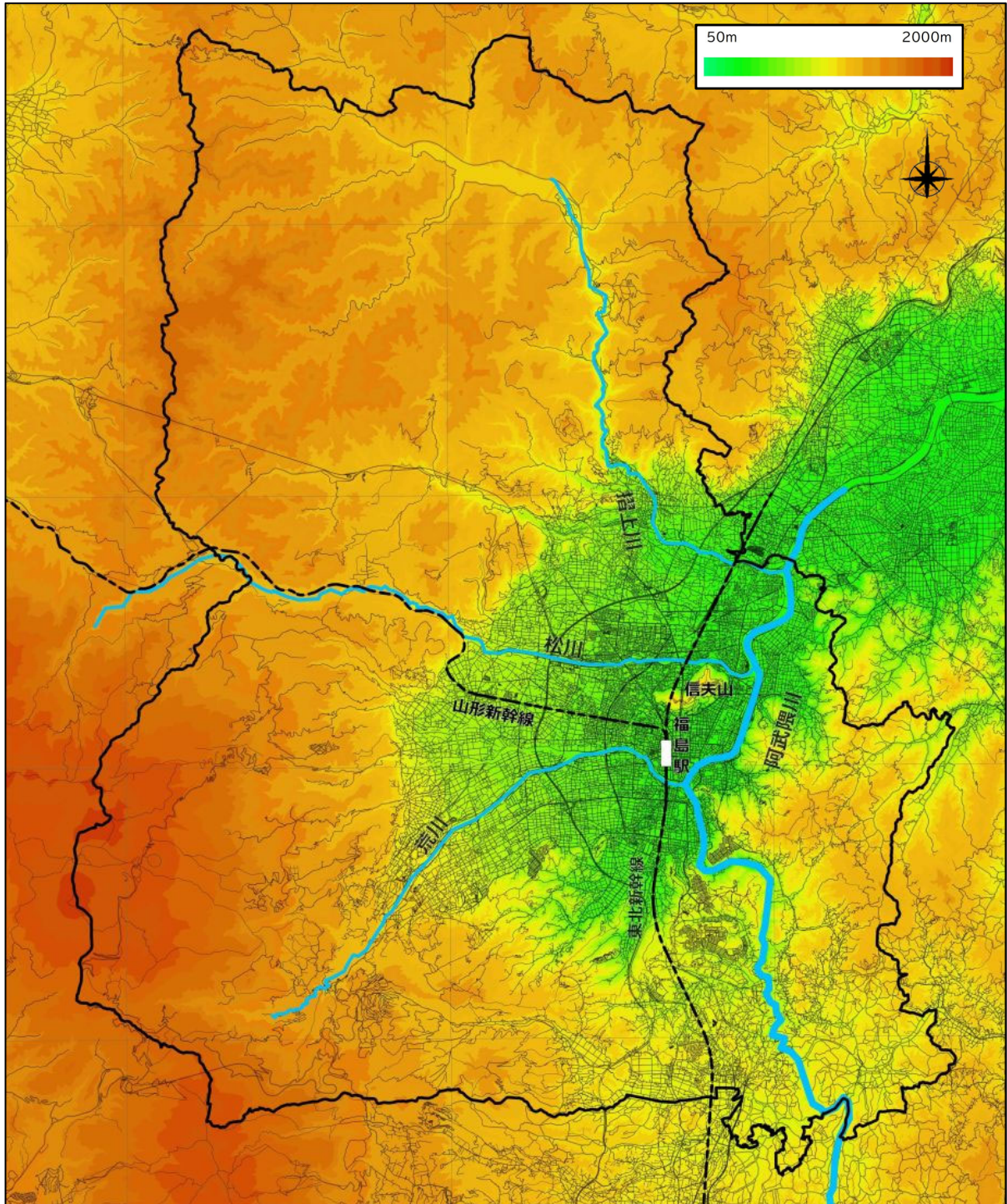
図 2-1 計画の区域

(1) 標高

標高は概ね市街化区域の外縁部から山地となり標高が高く、市東部を北流する阿武隈川に向けて、福島盆地を形成し、摺上川、松川、荒川などの河川が扇状地をつくりながら阿武隈川に合流します。

中心部に丘陵地として信夫山（標高 275m）があり、中心市街地の標高は 60～70m程度となり、都市計画区域内の標高が最も高い荒川の上流域の土湯地区は標高 500m以上となります。なお、市内の最高地点は東吾妻山の 1,975mです。

山側から阿武隈川に向けて水が流れる地形となっており、人口が集中する市内中心部は比較的なだらかであるため、水が溜まりやすい地形となっています。



出典：国土数値情報

図 2-2 標高図

(2) 森林の状況

本市は総土地面積の約 66%が森林であり、その内、約 40%が民有林、約 60%が国有林です。

このような森林は、国土の保全、水源の涵(かん)養や雨水流出抑制、地球温暖化防止等の多面的機能を有しています。

表 2-1 本市の森林の状況

総土地面積 (ha)	森林面積 (単位 ha)			森林率
	国有林	民有林	計	
76,772	30,545	20,214	50,759	66.1%

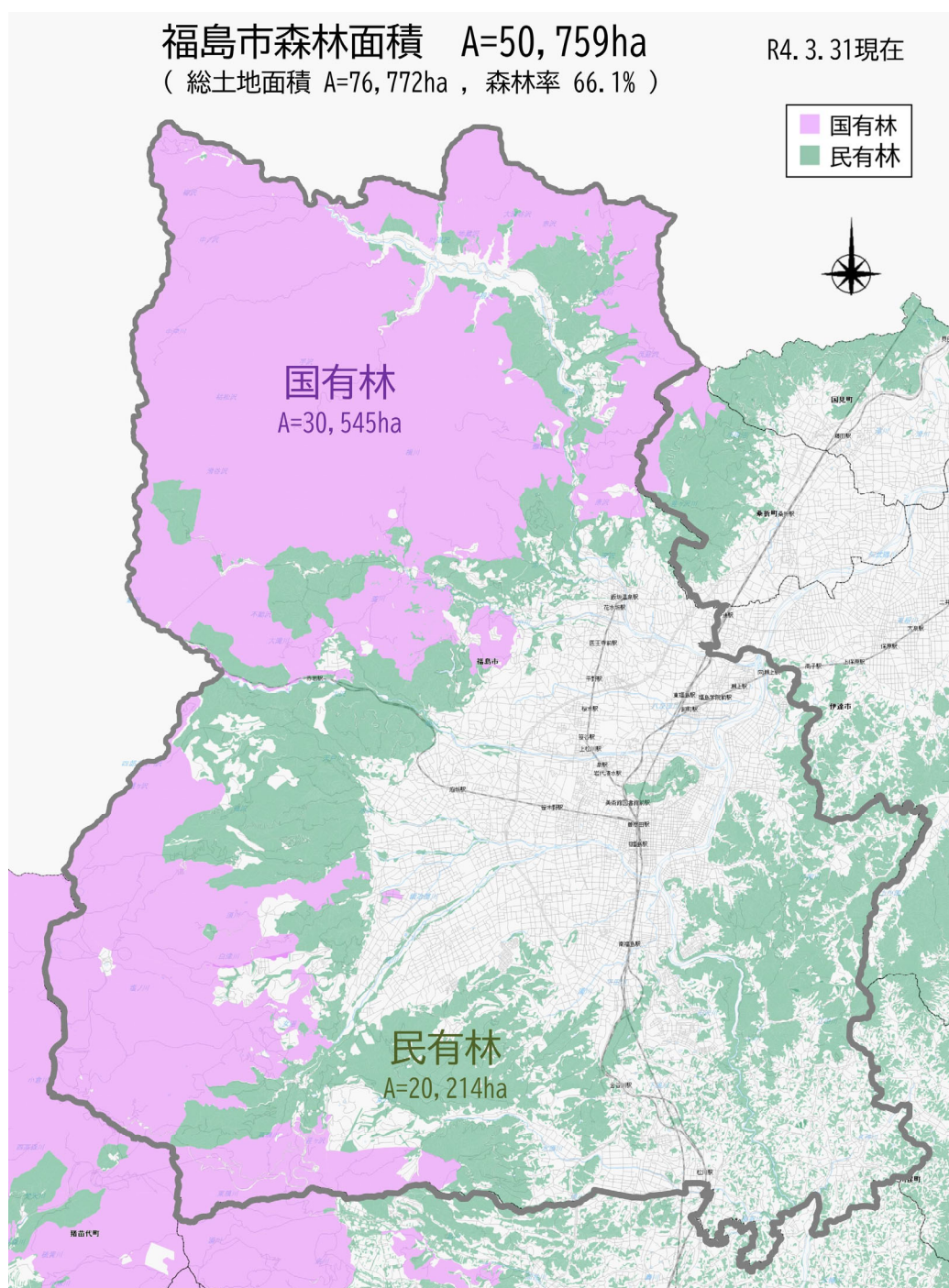


図 2-3 森林状況

(3) 河川の状況

市内には阿武隈川を代表とした国管理の一級河川が9河川、県管理の一級河川が30河川、市で管理する準用河川が6河川と都市下水路が16路線あります。本市南部は、北部と比較すると中小河川が比較的多く流れており、山地で降った雨水が比較的早い時間で荒川を通じて阿武隈川に流入しています。

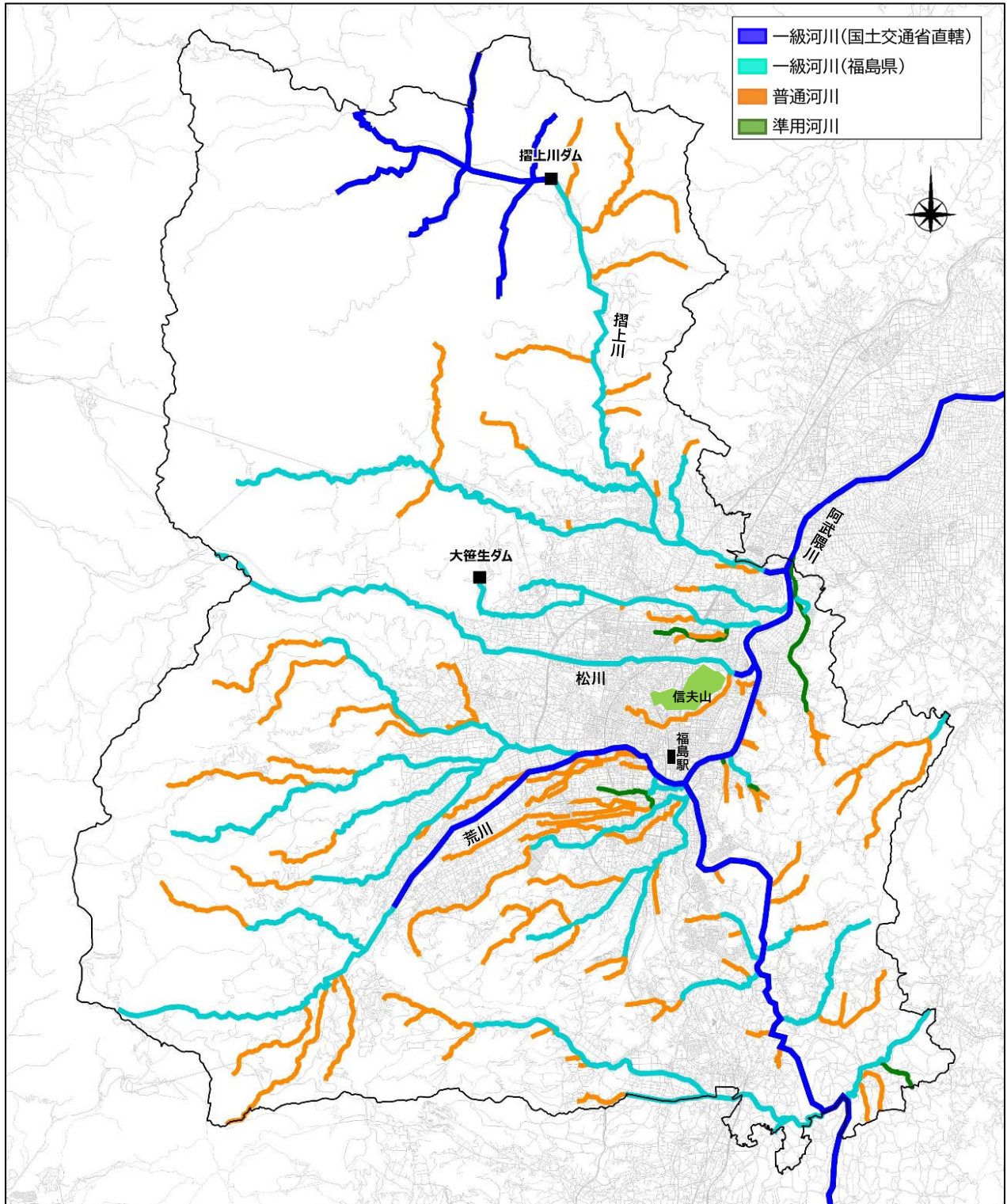


図 2-4 河川位置図

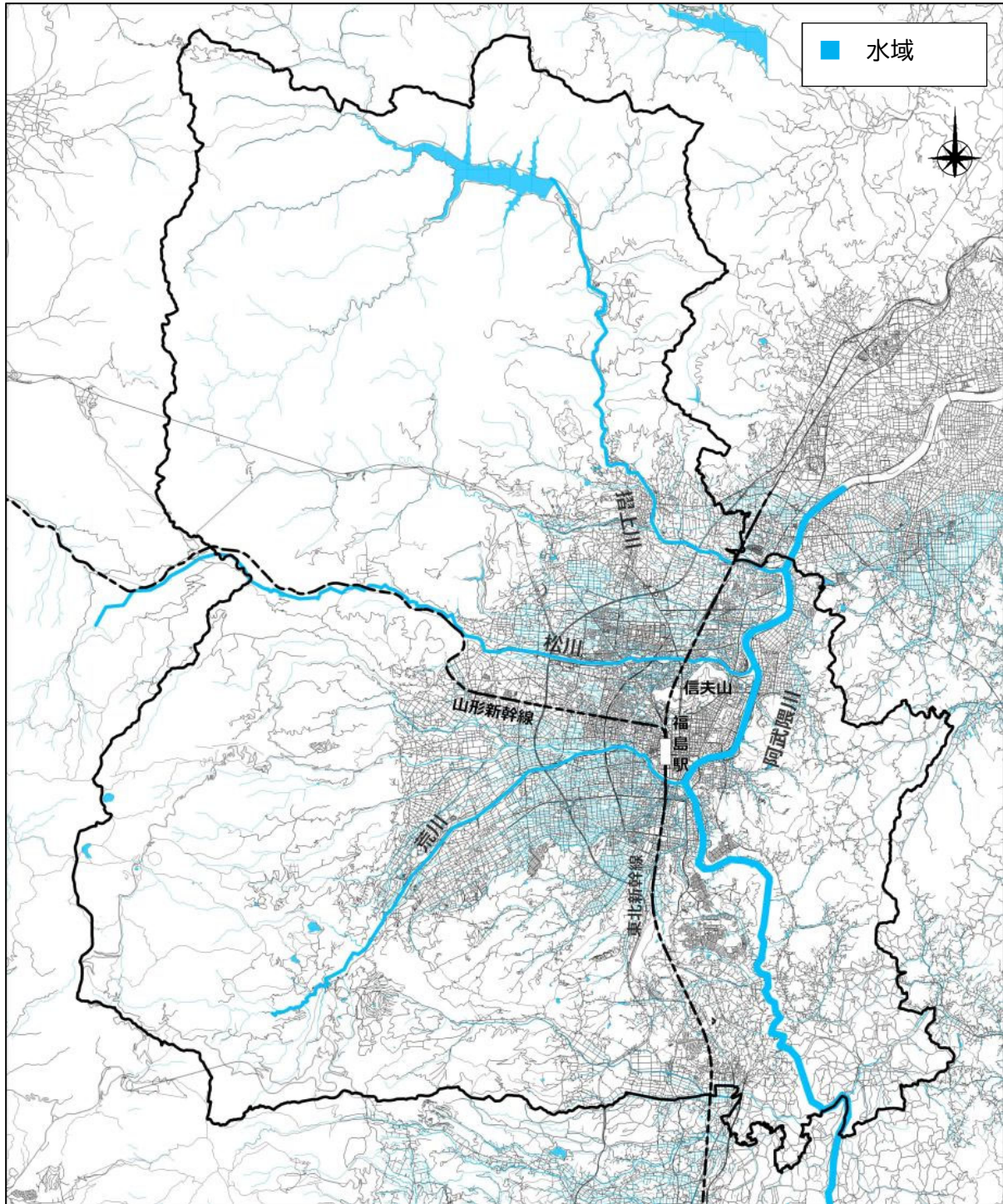
表 2-2 市内に流れる河川及び都市下水路一覧

区分	河川名	市内延長(km)	区分	河川名	市内延長(km)
一級河川(国管理) 9 河川	阿武隈川	27.6	一級河川(県管理) 30 河川	立田川	4.0
	荒川	13.0		水原川	13.8
	摺上川	11.6		払川	0.8
	大深谷沢	1.9		境川	2.5
	白根沢	2.5		くるみ川	1.3
	叶堂沢	2.2		女神川	4.9
	烏川	3.7		木幡川	0.2
	中津川	1.7	小計		198.3
	松川	0.7	準用河川(市管理) 6 河川	耳取川	3.1
小計		64.9		馬川	2.5
一級河川(県管理) 30 河川	荒川	13.6		くるみ川	0.5
	摺上川	12.7		胡桃川	5.6
	松川	19.4		堀切川	0.2
	米川	3.5		境川	1.8
	小川	17.6	小計		13.7
	赤川	4.5	都市下水路 16 路線	慈王川	1.3
	小国川	1.2		森合	0.6
	蛭川	4.4		野田町	0.9
	八反田川	13.9		御山1号	1.1
	北八反田川	2.6		御山2号	0.6
	新川放水路	0.4		岡部1号	2.9
	須川	16.9		岡部2号	0.7
	天戸川	14.1		吾妻	4.1
	鍛冶屋川	6.0		方木田	1.6
	白津川	6.0		下野寺	1.5
	塩ノ川	4.4		岡島	4.2
	新川	1.2		下釜	—
	濁川	10.4		下野寺第2	0.1
	大森川	7.8		郷野目	0.1
	平田川	3.1		岡島2号	2.4
	入川	1.2		方木田第3	0.5
	田沢川	2.5	小計		22.6
	下浅川	3.4	合計		299.5

※一部重複河川あり

(4) 水域の状況

市内のほぼ全域にわたり、河川、農業用水路、道路側溝などの水域が分布しています。それ以外の地域においても畑や果樹園等が分布しており、夏期においては河川の堰から取水しかんがい（農業）用水として利用されています。



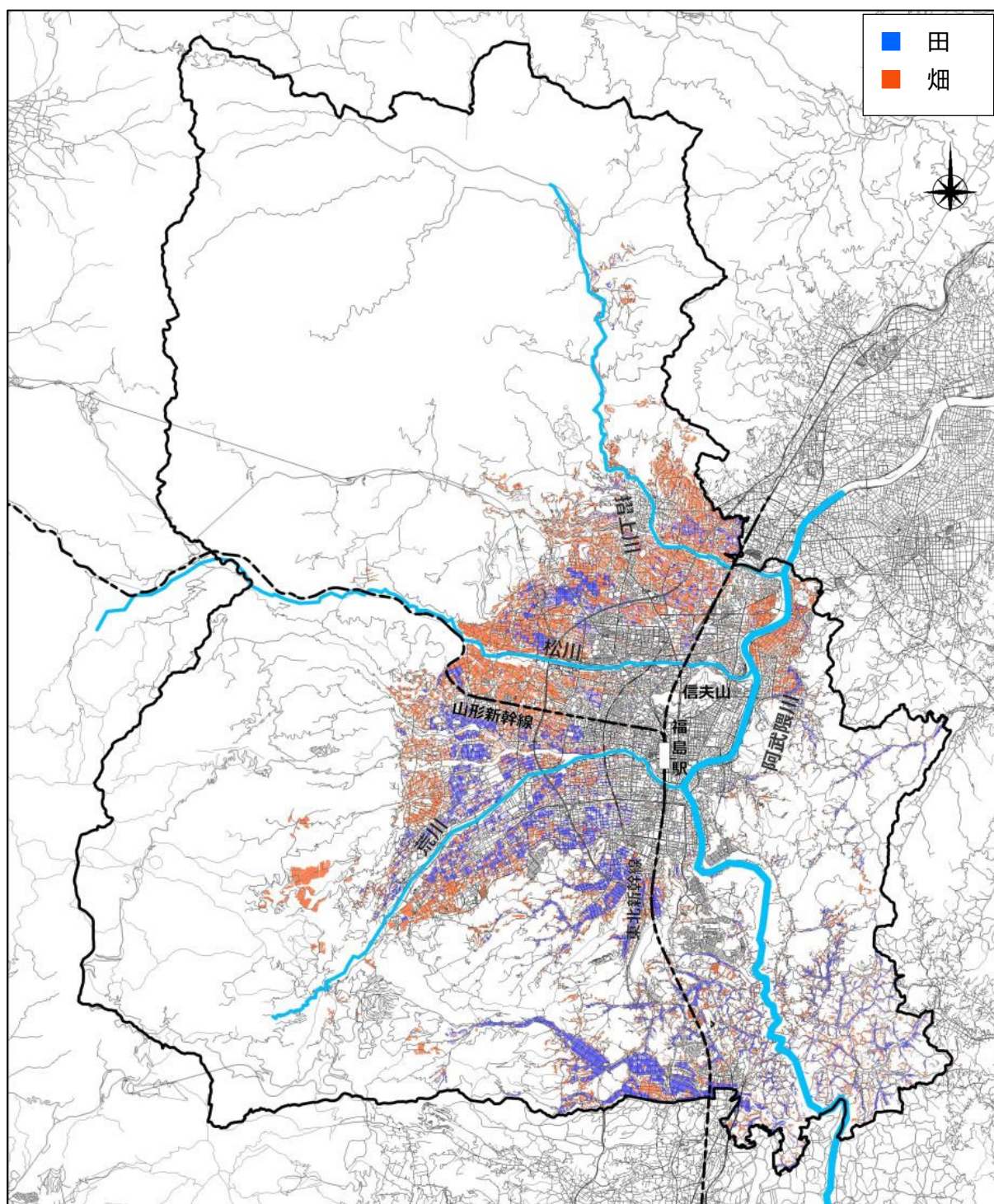
出典：国土地理院

図 2-5 水域図

(5) 農地の状況

本市は中心市街地を除くと、ほぼ全域に農地があり、そのほとんどは農業用水路からの取水により営農されています。農業用水路はやがて下流の中小河川に合流し、それらの川は市街地内を流下していきます。そのため、降雨前に上流側の取水を抑え急な川の増水を防ぐことができれば、下流側にある市街地への浸水軽減効果は高いと言えます。

田畑の面積は、田が2,590ha(市域の3.4%)、畑(果樹園含む)が3,990ha(市域の5.2%)です。



出典：農林水産省 農地の区画情報

図 2-6 農地位置図

(6) ため池の状況

ため池は上流側の山間の地域など水路の密度が低い市街化調整区域の郊外に多く存在しており、昔から農業用水として活用されてきました。市域中央部となる福島盆地内は水路が発達していることなどから、ため池はほとんどありません。

市内のため池 99 箇所（市管理）のうち、地震や大雨時に、ため池が決壊した場合に備えて「防災重点ため池」38 箇所を選定し、ため池ハザードマップを作成しています。

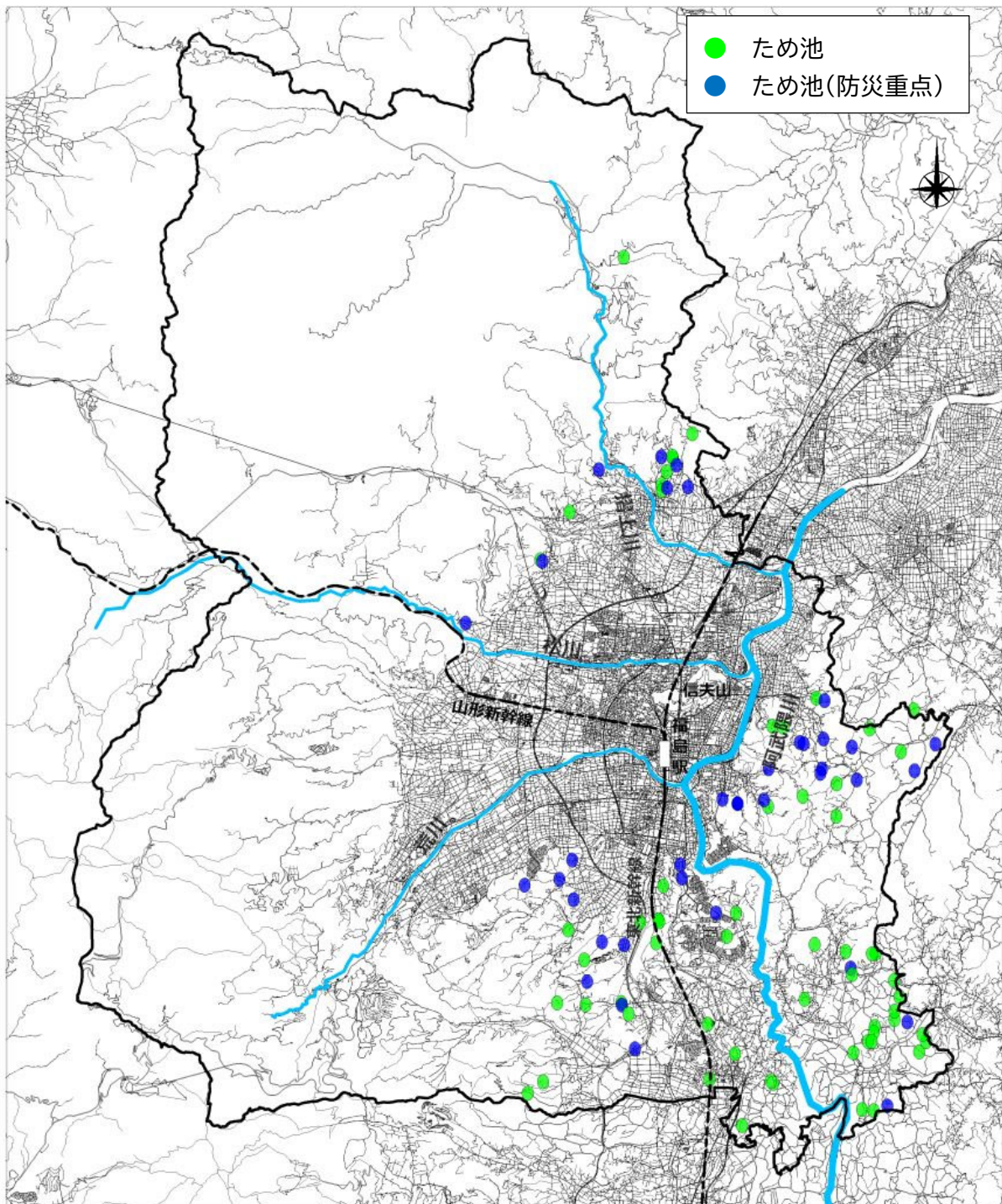


図 2-7 ため池位置図